

ステッラとのその後

生命科学科 1年 R. K.

1幕でステッラがホフマンに許しを求めているのに、二人の関係を引き裂くリンドルフのせいで、ステッラが愛の告白を綴った手紙と楽屋の鍵はホフマンのもとに届かなかった。ホフマンはステッラの気持ちに気づかずにお酒を飲み続けているシーンで2幕へと移ってしまった。私はステッラとホフマンはその後どうなったのか気になったので、オランピア、ジュリエッタ、アントニアの幕を参考にして自分なりに考えてみたいと思う。

結論から言うと、ステッラとホフマンは恋人関係にはならなかったと思う。ホフマンはオランピア、ジュリエッタ、アントニアの3人との恋をステッラに重ね合わせて見ている。つまり、3つの恋話からステッラとのその後を推測することができる。私は授業レポートでアントニアの幕を担当した。その時、アントニアとホフマンの関係とステッラとホフマンの関係は類似点が多くあることに気がついた。だからオランピアとジュリエッタにもステッラと共通する点があると考えた。これから3人とステッラに共通するところを挙げていく。

オランピアは物理学によって作り出された自動人形である。心はなく、容姿も歌も不気味であった。人形であるから表情が変わらずに常に同じ顔である。この顔に感情を表さない点がステッラと共通する部分である。ステッラが公演でホフマンと再会した時、ステッラはホフマンに対して愛しているという気持ちを隠し、表情に表さなかった。そして、リンドルフの妨害によって手紙と鍵を受け取っていないホフマンもステッラに対して無表情でいた。両者が気持ちを知らずにお互い勘違いをしどうすることも出来ず、真実が分からなくなっている状況を、2幕で出てくる不思議な眼鏡が真実を隠してしまうことで象徴的に表現している

ジュリエッタは男を誘惑して影を奪う高級娼婦である。娼婦と高級娼婦の違いはなにかと思い調べたら、「娼婦のなかには高級娼婦という特別な存在がいて、美貌に優れた女性しかなることができない」と書かれていた。美貌の優れた女性という点がステッラと重なる。酒場でホフマンが学生たちにクラインザックの物語を歌う場面で、途中からステッラの面影を歌いだしてしまう。ふとした時に思い出してしまうほどステッラは美人でホフマンは虜になっていた。

アントニアは、ホフマンの語った3人との恋物語の中で唯一、両思いであった。そして、ステッラとホフマンも両思いであった。1幕ではホフマン自身は気づいていないが、ステッラはホフマンを愛していた。もうひとつ共通しているのがアントニアもステッラも歌手であることだ。アントニアは愛か歌手の栄光の選択で歌手の栄光を選んだ。ホフマンはアントニアに歌手を諦め、自分との愛を取ってほしいと願ったが叶わなかった。そしてステ

ッラは既に高名な歌手である。このことは、ステッラも愛と歌手の選択を迫られたら歌手を取り、ホフマンはまた取り残されてしまうということを示唆している。ホフマンは詩人であり、アントニアやステッラと同じ芸術家である。しかし、芸術家としての夢を追うことよりも愛を大切にしているホフマンは、アントニアとステッラとは考え方が異なる。考え方の違いは両思いであっても結ばれない結末につながるものが4幕のアントニアの話で示されている。

1幕ではステッラの人物像があまり紹介されていないので、2～4幕で少しずつステッラと共通の部分を出し、ステッラという人物を想像させたのだと考える。そして、ホフマンは、話したこの3人とは失恋している。わざわざ失恋話をすることから、ステッラとの関係も終わりであるというホフマンの気持ちの表れが推測される。もしステッラとホフマンがその後お互いを愛し続けるという終わりならば、ホフマンは失恋話などしないと考える。